～岡山柔整トピック、追悼小合洋一元会長～

2022.5

『小合洋一先生お別れの会～生々館道場道場葬～』



日本中が「県外に行きたいなぁ」「懐かしいあの人に会いたいけど」「皆なでワイワイやりたいんじゃけど」……なんか不安。

私達の業界で毎年行われていた勉強会や懇親会、若者が純粋に挑む各種スポーツ大会、人生の節目であろう入学式や卒業式、そして各地区で行われていた祭りなどのイベントが姿を消してから３年目を迎えます。

そんな、どんよりとした空気が蔓延していた令和４年の GW（5/4)、3 月 18 日にお亡くなりになった小合洋一先生のお別れの会が行われ、先生のご友人や教え子の皆様と一緒に、私たちもご参拝させていただきました。



小合先生を通じてのお仲間が一同に介した会場では、会が始まるまでは懐かしい方々とのご挨拶があちこちで見受けられ、明るい雰囲気で進められると思いきや、最初の橋本岳衆議院議員が、ご挨拶で(父)龍太郎先生との思い出話に触れられた際に声を詰まらせる場面があり、会場の雰囲気は一変、ご挨拶いただく全ての方が先生との思い出に涙を堪えきれないお別れの会となりました。

私たち役員が小合先生と最後にお会いしたのは今から 3 年前になります。その時、先生に「今の柔整に足らないものは？」とお伺いしたら、「遊び心」と即答されたのを今でもはっきりと覚えています。



「自らが楽しみ、さらに周囲を楽しませる事が、患者さんや地域の人たちの力になる」。思い起こせば、女子柔道の全国大会やオーストラリア遠征、社団では会員の家族を招いてのクリスマス会(サンタクロースも参加)、さらにはスキーバスツアーなど、先生の周りには常に多くの人と、その人達の笑顔があったように思います。

現在のコロナ禍で、様々な業界が経済的なダメージを受けており、それは柔整も例外ではありません。しかし、最も深刻なダメージは「人と会うのが怖い」「知人や友人との距離が離れてしまった」、そんな心の部分であり、さらに厄介な事は未だその空気を払拭できないことにあるように思います。

(公社)でも今までのように事業を行いたくても、どこか腰が引けている雰囲気があり、今回のお別れの会で小合先生に「おめーらー、しゃんとせぇ！」、そんなお叱りをいただいたような気がしました。





先生が会長を退かれてから、はや 9 年の月日が流れます。最悪のそして出口の見えない現在の状況の中で、事業の開催の判断や、会員の収入の減少に有効な手を打てない私達に、まさに命賭けでいただいたメッセージは、いつものお言葉「行けー、進め～、男は死んでも桜色」だったと勝手に思っています。

お別れの会には橋本岳衆議院議員、逢沢一郎衆議院議員、小野田紀美参議院議員、片岡聡一総社市長にもご参拝いただきました。この先生方とのお付き合いのほとんどは小合先生からのご縁です。



中でも最初のご縁は「橋本龍太郎先生」。そして最後に本日いただいたご縁は、ご子息の橋本岳先生と一緒にご参拝いただいた「自見はなこ参議院議員」でした。この貴重な、そして深いご縁を大切にしなければなりません。

今夏の参議院選挙では私達は小野田紀美先生と自見はなこ先生を応援しています。偶然、両候補共に女性。小合先生が岡山で女子柔道の全国大会を開催し、柔道の世界で男女の区別をなくす基礎を作られた事を忘れず、両候補に大勝していただくことが我々に与えられた最後の宿題のように思います。









